水辺ライフスタイルの教科書
NO.3

ひねもすカフェ
近藤洋子さん

沼津は、生活の中に自然が入り込んでくる中堅都市

ひねもすカフェはかつての魚河岸の近くであった、魚町にある
大正時代の蔵を改装して造られた、
日本全国からカフェ好きが集まる場所として知られている。
入った途端に広がる、古いカメラ、ブリキ、懐かしのキャラクターのお弁当箱。
お店の至るところに置いてある、レトロな雑貨からは、
積もった時間の懐かしさ、温かさが感じられる。
ひとつひとつをつい手にとって見たくなり、あっという間に時間がたってしまいそうだ。

「自分たちと同じ温度で店を大事にしてくれる
お客様が増えてきてくれてすごくありがたいです。
沼津は、人の生活する街と自然がとても近い場所。
生活の中に、海や川や山が自然に
入り込んでくるんです。
通勤途中だったり、ちょっとそこまで買い物だったり。
そんな中にこんなに自然が入り込んでくる中堅都市
なかなかないですよね。」
そう話す店の軒先にも、暖かな光が差す。
そして表通りに出ると、狩野川が流れ
気持ちのいい海風が吹き渡る。

土地の魅力は、外から中にアピールして響かせる

「この場所の豊かさは、もったいないけど住んでいるとなかなか実感できない部分もある。
東京だったり、都市生活をしている人の方が響くんじゃないかと思って。
なので、SNS などの発信では地元の人だけじゃなく、県外の人に響くように意識してます。
そうして東京や神奈川からお客さんが来てくれたりして。全国からも来だして。
そうなると、そんなにすごいのって地元の人たちも気になって来てくれる。
外から中にアピールしていくほうが響きやすい。沼津を愛するがゆえにそうしてます（笑）」
ひねもすカフェの写真は、香りや温度、季節が伝わってくる。
そこには、届ける側の明快な意識があったのだ。
例えば料理。
俗にカフェ飯と呼ばれるそれより、明らかにボリュームがあり、季節ごとの変化がある。
まるで、小さい頃の祖母の台所仕事を綴っているかのような。
「カフェ飯というと、量が少ないだとか、お洒落なだけだとか、そこの想像は越えたくて。
やっぱり お金をもらっている以上、見た目も喜びを与えたいし、旬の食材を使っていたい。
品数を多く、冷食は使わない。作れるものは自家製。
ちょっとお家ではやらない感じや遊びを入れています。」

お店にいても導ける、案内マップがほしい

全国からお客さんが訪れるお店ならではの視点で、リクエストを聞いた。
「マップが欲しいですね。沼津を案内できるもの。
御用邸だとか千本だとか、海のことまでよく聞かれるんですけど
お客さんに行き方を
うまく説明できなくて。
我入道河口から開ける風景とか
最高なんです。
本当はついて行ってあげたいけど、
お店があるからね（笑）」

ひねもすカフェ
TEL・055-951-7812
沼津市魚町 20 番地
営業時間　11:30 ～ 17:00（ランチは 14:30L.O）
17 時以降は前日までにご予約ください。
定休日　月曜日

Q
最近、魅力を再発見したものは？

OLD IS NEW

古いカメラを集めています。
これは、父から
譲り受けたカメラ。